



連続講演会：『湾岸産油国と指導者交代』第二回「オマーン政治体制とポスト・カーブース問題」（村上拓哉・中東調査会研究員）

1月16日（18:00-19:30）、AP西新宿会議室「I」にて、下記のとおり連続講演会『湾岸産油国と指導者交代』第二回を開催しました。

講師：村上拓哉 中東調査会研究員

演題：「オマーン政治体制とポスト・カーブース問題」

本講演では、1970年7月に即位して以来44年間オマーンを統治してきたカーブース国王が昨年7月から「健康診断」のためドイツ滞在を続けていることに関連し、昨今懸念されているポスト・カーブース問題について、オマーンの歴史や政治体制とあわせて解説しました。イバード派の教義により、伝統的に皇太子を指名する制度がないオマーンでは、王位継承が滞りなく進むのか国外で話題になっていることが指摘されました。講師からは、1996年の国家基本法制定により、後継者が誰であっても王位継承に関して制度上の混乱が発生する可能性は低いこと、他方、オマーンの国家統合と近代化の推進者としてカリスマ的な支持を受けていたカーブース国王の権限を、後継者がそのまま担うことは難しいとの見通しが示されました。



質疑応答では、国王交代後の行政ポストの帰趨、議会の発展の可能性、国王交代の外交政策への影響、軍・治安部門において王族が占めるポスト、部族勢力の動向などについて議論がありました。

連続講演会第三回「サウジアラビアの後継問題と統治構造の変化」（石黒大岳・アジア経済研究所研究員）は2015年2月9日（18:00-19:30）AP西新宿にて開催予定です。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会HPをご覧ください。URL：<http://www.meij.or.jp/>